

## 新図書館等複合施設の実施設計に関する市民説明会 開催要旨

- 1 日 時
  - ①令和5年2月19日(日) 10時00分～11時40分
  - ②令和5年2月19日(日) 13時30分～14時00分
  - ③令和5年2月19日(日) 15時30分～16時00分
  - ④令和5年2月21日(火) 19時00分～19時45分
- 2 場 所
  - ①勤労者研修センター(オンライン併用)
  - ②妙高高原メッセ
  - ③関山コミュニティセンター
  - ④勤労者研修センター
- 3 出席者 合計34名(うちオンライン9名)  
  - ①会場16名、オンライン9名、②2名、③3名、④4名
- 4 説明者 生涯学習課 平井課長、余野室長、小林係長、齊木主査、建設課 渡部参事  
榎佐藤総合計画：管理技術者 渡辺、意匠担当 小寺
- 5 次 第
  - 1) 開会
  - 2) あいさつ
  - 3) 新図書館等複合施設の実施設計等について
    - ①概要説明
    - ②設計詳細説明
  - 4) 質疑応答
  - 5) 閉会

---

### 1) 開会

---

### 2) あいさつ

○生涯学習課 [生涯学習課長あいさつ]

---

### 3) 新図書館等複合施設の実施設計等について

#### ①概要説明

○生涯学習課 現在の図書館は、昭和58年に開館してから40年を迎え、施設の老朽化が進むとともに施設が狭く、図書の保管場所や閲覧席の確保が難しく、施設や設備も高齢者や障がい者への配慮が十分ではないなど多くの課題を抱えている。また、高度情報化が進む中で、子どもたちの読書活動の推進や市民の学習活動を支える豊富な資料・情報の提供、電子図書などのICTを活用したサービスの充実を進め、利便性の確保をより一層図っていくことが必要となっている。このような背景を受け、妙高市では、市民のニーズや社会の変化等に対応した新たな図書館等の整備について、検討を進めてきた。

平成29年に有識者や関係団体、市民公募の委員からなる「妙高市図書館あり方検討会」を設

置し、さらにパブリックコメントなどで広く市民の皆様から意見をいただきながら、令和元年度に「妙高市図書館整備基本構想」を、令和2年度に「妙高市新図書館等複合施設整備計画」を策定した。これらの計画に基づき、令和4年度から、市民との意見交換会等や市民アンケート等を行い、施設の基本設計に着手、令和4年度は実施設計を進めてきた。

事業目的については、単に本の貸し出しをする図書館の整備だけではなく、子どもたちの健やかな育成と、人口減少や市街地の空洞化といった地域課題に対応するため、図書館、子育て支援、生涯学習、市民交流などの都市機能を集約した複合施設を整備することによって、まちなかにぎわいや利便性の向上、コンパクトで住みやすいやすいまちづくりを進めることを目的としている。

施設の機能については、複合施設として様々な機能を集約して、市民の暮らしやすさの向上につながることや、中心拠点の活性化にも寄与することが重要であり、図書館整備基本構想で掲げる3つの基本方針①人と本、人と情報の出会いや交わりにより、市民の豊かな感性を育み、いつでも必要な知識や情報を得ることができる「知の拠点」としての役割、②市民の主体的・自発的な学びを支える「生涯学習の拠点」、③あらゆる世代の市民が集い、つながり、交流や連携が生まれる「交流の拠点」、これらの内容等を踏まえて、図書館、子育て支援、生涯学習、市民交流の機能を併せ持つ複合施設として整備し、図書館を核として、各機能が既存の枠組みを超えた連携・融合を目指すことで、まちなかに新たなにぎわいを生み出していくことを目指している。

各地域の図書室においては、現在、インターネットや電話等で予約した本館の図書を近くの図書室で受け取り、返却できるサービスを行っている。新図書館整備に合わせ、市全体の蔵書整備を進めていく中で、各地域の図書室の蔵書も、それぞれの地域の特色やニーズに応じた充実を図る計画であり、どの地域からでも、これまで以上に充実した図書館サービスが提供できるよう取り組んでいく。

事業スケジュールについて、令和5年度は用地買収を行った後、本体工事の入札・契約を予定している。合わせて、中央駐車場内の支障物件の撤去や移設工事を行い、本体工事は、令和5年度から着手し、令和7年度供用開始を目標に進めていく。いきいきプラザについては、複合施設の竣工後、令和7年度から令和8年度にかけて解体工事を行い、解体後は複合施設の西側駐車場として整備し、グランドオープンを迎える予定である。なお、スケジュールは、現時点で予定している内容で、今後、変更が生じる可能性もあるので了承いただきたい。

---

## ②設計詳細説明

- 佐藤総合計画 2021年9月、2022年2月に市民の皆様と意見交換会を開催し、そこでの意見を取り入れながら、実施設計を進めてきた。そこでは特に積雪時の意見や具体的なスペースについての意見をいただき、それらを踏まえ設計を進めてきた。

新図書館等複合施設は、市で作成した上位計画である基本構想や整備計画を基に設計を進め、設計では、「人と情報と居場所」が密接に絡み合う(つなぐ)をコンセプトに、図書館・生涯学習・子育て支援が融合し様々な活動を行う居心地の良い場所やそういった居場所を通して、まちの賑わいに貢献することを目指した。

基本的な建築の考え方について、敷地は、駅周辺エリアと北国街道、文教エリアをつなぐ位置にある。それぞれから、複合施設での活動が見え、賑わいがあふれ出し、引き込まれるような、市民が気軽

に訪れやすい、賑わいのある施設づくりを行う。

建物の特徴的な形は、妙高の自然や風景、建築的な合理性から導かれたものである。北側からは卓越風があり、自然の風を取り入れ、日射をコントロールしながら、人と本に最適な環境をつくりだす。六角形の形は、例えば、ハチの巣や雪の結晶など構造的にバランスの良い形である。合理的な構造は、ローコストにもつながる工夫になる。

図書館は、大きな面積が必要である。目的の場所にアプローチがしやすい平面構成とすることでわかりやすく、管理もしやすい計画とした。

配置計画については、3方向からの人の流れに対して、3方向から迎え入れる形とし、イベントスペースは、建物の内外が連続するように、かつ、周辺を活かすよう計画した。また、積雪への配慮は、建物をコンパクトにすることで、堆雪スペースを確保しつつ建物の周辺には約4m程度の空地を確保して落雪に配慮している。さらに車で来館者が多いことが予想されることから歩道と車道の動線を明確にし、安全性に配慮した。庇を設け、雨や雪の日にも安全に来館者を迎え入れる。融雪の考え方は、基本的に消雪設備を敷地全面に採用し、出入口の箇所は電気融雪とし、除雪を極力行わない計画とした。駐車場は西側と東側に配置し、建物近くには、おもいやり駐車場を庇の下に設け、様々な方の利用に配慮した。さらに西側を駐車場としたまま、東側をイベント広場として利用できるなど柔軟な使い方ができる。

平面計画について、1階はエントランスや多目的ルーム、子育て支援機能などがひろばと連続する「みんなの広場」、2階は図書館のレファレンスや市民活動の中心となる「創造の場」、3階は図書館を中心として知(本)の拠点となる「本の拠点」となり、1階から3階へ、活動的な空間から静かな空間に、段階的に繋がるように考えた。3層をつなぐわかりやすい動線を、建物中央に確保した。建物の窓際に本や資料のコンテンツを配置するため、「棚フレーム」と呼んでいる書棚を設ける。棚フレームは、各フロアの特徴に合わせて、資料や展示など自由に利用することを考えている。

各階の平面レイアウトについて、1階は周辺の道やひろばと一体となる「みんなのひろば」をつくる。全周囲から、スムーズにアプローチができ、エントランスや多目的ルームと連続する。多目的ルームはイベント利用のほか、日常時は学習室として気軽な利用も可能である。広いエントランスにカフェを設け、くつろいで雑誌などの読書ができる。南側の明るい場所にプレイルームを配置し、スタッフルームからプレイルームが見渡せ、こどもの安全に配慮する。2階は、人や活動がつながる「創造の場」である。階段を取り囲むように、学習や市民活動のスペースとスタッフ室を配置する。フロア全体が居場所と本が融合した「コモンズスペース」となる。様々な学習やレファレンスサービスと多様な図書館活動の場となり、それらをサポートする図書館のスタッフ室からは、活動が見渡せ、管理しやすい計画で、レファレンスサービスの効率を上げる。昨今の図書館は、2階のように市民の方々の日々の悩みや課題を、図書を通して図書館職員と解決する場所が重要となる。設計コンセプトの「人・本・居場所をつなぐ」が特に体现されているフロアである。3階は、本に囲まれた、本と向き合える「知(本)の拠点」である。階段の周りを、書架が囲み、その周りを棚フレームが取り囲む。目的の本や場所にコンパクトにアクセスできる、わかりやすい構成である。西側には児童エリア、南側には「YA(ヤングアダルト)」北側には「読書スペース」を設け、音のゾーニングを徹底し、誰でも気兼ねなく利用できる。サービスカウンターは、館内全体が見渡せる位置に配置した。また、それぞれのエリアに、書架のまとまりを持たせることで、ゆとりを持った配架ができる。ゆとりある通路やゆったり使えるエレベーター、各階に多目的トイレを配置するなど、

ユニバーサルデザインを徹底した。窓際のコーナー部は、景色の良い閲覧スペースとなる。

外観はこの地域の気候や3方向からのアクセスに配慮した六角形をシンプルに表現した外観である。凹凸を少なくし、つららや雪庇対策に配慮したシンプルな外観である。庇の端部には融雪設備を設け、歩行者や維持管理のしやすい工夫を行いながら、使いやすい施設とする。断熱効果の高い外断熱を採用し、ガラスなども断熱性能の高いものとしながら、最大限省エネルギーな建物を目指した。

家具やサイン、本の配置について、図書館における「家具」や「サイン」の設えは、市民の居場所づくりにとって重要である。建築のコンセプトと整合しながら、ひとつの妙高らしい施設を目指した。家具は、妙高の山々をモチーフに妙高らしく、親しみが持てる家具とした。サイン計画も、建物のカタチ、妙高の山々の連なりをモチーフとしながらデザインしている。

本の配架について、図書館にとって本をどのように配架するか、大切な内容である。1階には、雑誌や新聞に加え、子育て支援まわりには絵本などを配置した。2階には、歴史や産業、芸術など様々なジャンルの本が活動を支える。3階は、文学の本とまとめ、景色が良く居心地が良い場所で本が読める。南と西側には児童閲覧を配架し、年齢に合わせたゾーニングを行う。

---

(質疑応答)

【2/19 勤労者研修センター】

参加者A:新図書館が行きたい施設になっているか確認したく、説明会に参加した。設計にあたっては、これまでどこへ視察に行ったか。

市:石川県野々市市、新発田市、聖籠町、三条市など県内外の図書館や図書館複合施設を視察してきた。

参加者A:新施設では、映画などを大画面で見られる場所があると良い。

市:市民活動室は防音仕様で、そこでミニシアターなどができると考えている。

参加者A:子育て支援について、遊ばせるスペースとともに、親子が休めるスペースがほしい。ゆったりと過ごせるスペースが大切である。

市:カフェコーナーなどで、親子が休むことができる。

参加者A:読み聞かせについては、ボランティアルームで行うのか。活動の様子がわかるような場所が良いのではないか。

設計者:読み聞かせコーナーはプレイルームの一角を想定している。

参加者A:カフェスペースが出入口の付近にあり、寒いのではないか。風が直接入り込まないよう工夫してほしい。

設計者:出入口に風除室を設けている。また、1階エントランスの冷暖房は床の輻射熱法式とし、居心地が良い空間となるよう設計している。

参加者A:静寂読書室の意図しているところは何か。図書館はそもそも静かなところである。

設計者:複合施設として、まちの賑わいと図書館が同居する。音のゾーニングに配慮しながら、静かに本を楽しみたい利用者の居場所となる。

参加者A:いきいきプラザはどうなるのか。

市:いきいきプラザは新施設が出来た後、解体する。社会福祉協議会とクリエは、令和5年度からさん来夢あらいに移転。子育て広場は、令和7年度に新図書館等複合施設に機能を移転する。チャレンジシ

ヨップは1年度毎の契約であり、令和7年度までにそれぞれ独立して近隣の空き店舗などへ移転していただくことで調整している。その他の機能も他の施設に移転する予定である。

参加者B:非常にクローズな話し合いでこれまで来てしまったことは反省だと思う。こういった議論を踏まえて設計が出来たら良いと思った。説明の中で街の賑わいという話があったが、建物が出来ても賑わいはそれほど変わらないのではないかと。どういう人が、どういう活動をするかが大切である。

市:この施設を活かすには、どのように運用していくのかがとても重要なポイントになると考えている。運用方法等については、これから検討していくことになるが、市民の皆さんからサポーターとして参画いただきながら進めていきたいと考えている。

参加者B:山の形をした家具の提案があったが、使いやすいものか。

設計者:運営者の意見を聞きながら、取り入れていきたい。

参加者B:建物の熱源は何か。

設計者:電気とガスである。

参加者C:木を使った家具の提案があったが、家具類は妙高市産の木材を使用するのか。

設計者:極力地場産を使いたいと考えている。

参加者C:市内の森林は早めに木を選んでいかないと良い木材とならない。

市:県内産を含め地場産という認識である。

参加者D:いきいきプラザの2階で活動をしているが、いつまで利用が可能か。

市:老人憩いの家の機能については、他の施設への機能移転を協議している。

参加者F:運営体制はどのようになるのか

市:市直営、指定管理、業務委託など様々な運営体制が考えられる。現在、先進地の事例などを情報収集しているところであり、この施設に最も適した手法を検討していく。

参加者E:図書館の運営方法等について、検討会のようなものをいつ頃設置するというスケジュールはあるのか。

市:運営等の具体的な検討は工事着手後を予定している。運営体制については、職員体制等も関係してくることか、市で方針を示していきたい。詳細な運用方法等については、市民や団体等の意見もお聞きしながら、よりよいサービスが行えるよう進めていきたいと考えている。

参加者E:設計について100人いれば、100通りの見方がある。座席について概ね100席程度あるが、図書館来館者が満足してもらえるよう工夫して欲しい。例えば、静寂読書室など横並びの座席については、仕切りを設けたりしても良い。また横並びに座ると隣とは座席を一つ空けて座ることが多い。図面上で2階にアクティブラーニングという言葉があるが、知る限り大学図書館などで行われるような活動である。

設計者:仕切りを設けるなど細部の対応は、利用者の反応を見ながら対応していくことになる。一人で静かに本を読みたい人、仕事や勉強で調べものをする人、友人と一緒に勉強したい人、親子で会話しながら本を楽しみたい人、グループで話し合いながら活動したい人など、それぞれのニーズに応じて、好きな場所を選んでいただけるように多様な空間と座席を用意している。

## 【2/19 妙高高原メッセ】

参加者A:現図書館の老朽化も建設の要因の一つとあったが、そんなに不自由さは感じない。建て替え

る必要があるのか。

市：現図書館の現状を踏まえ、今後の図書館のあり方を市民を交えて検討してきた。他市の図書館に比較し蔵書数が少ない、蔵書を収蔵するスペースがない、閲覧席数が少ない、高齢者や障がい者の使いやすさなどに対応が必要などの意見がまとめられ、図書館整備の計画がまとめられてきた。

参加者A：本が少ないことは確かである。図書館や図書室にない本は、取り寄せサービスなどを使っている。新井に良い建物を建てても、高齢者にとっては、交通手段がないことがネックで、利用する機会は少なくなる。気軽に動ける仕組みが必要である。

市：施設のサービスをどう届けていくか課題はある。新図書館では電子図書館の導入や各図書室への配本サービス等の充実を力を入れていきたい。同時に各図書室の蔵書数を増やしていきたい。交通手段についてはデマンド型のタクシーの活用などが考えられる。

参加者A：いきいきプラザで活動や食事を楽しむ高齢者から、自分たちの居場所がなくなるのではとの声がある。

市：いきいきプラザ内の老人憩いの家については、移転先を調整中である。1階のクリエは朝日町に移転する。新施設のカフェは食事をするレベルとまではいかないが、飲み物を飲みながら本を楽しめる機能を設置する予定である。憩える機能はエリア全体で確保するよう調整中である。

参加者B：新施設の蔵書数はどの程度になるのか。

市：現図書館の本館の蔵書数9万冊を最終的には16万冊にしたいと考えている。

参加者A：妙高高原を置いていかないでほしい。

市：妙高高原図書室の蔵書数の充実を進めるとともに、本館の蔵書数が増えることで取り寄せサービスの充実につながる。

## 【2/19 関山コミュニティセンター】

参加者A：現図書館は老朽化もしており、建て替えが必要であると認識しているが、勤労者研修センターや新井ふれあい会館など、同様の機能がある現状の施設を今後どうしていくか、全体的な計画を明確にしてほしい。

市：公共施設の再配置や有効活用の計画に基づき進めているところであるが、今後、類似施設をどうしていくかなど、今後の計画の中で配慮しながら進めていきたい。

参加者A：社会福祉協議会はどこへ移転するのか。

市：さん来夢あらいに移転する。すでに再配置の行き先が決定しているところもある。

参加者B：屋根の構造はどのようになるのか。また、パラペットの立ち上がりはどの程度か。冬期間、風が強い時は南西部に雪庇ができる可能性がある。融雪装置を軒先に作ってもパラペットの立ち上がりが低いと融雪が効かない経験がある。

設計者：屋根はコンクリートの床に防水を施す。パラペット全周に融雪ヒーターを設置するとともに、パラペットから内側1mくらいに融雪ヒーターを入れ、雪庇対策を行う。パラペットの立ち上がりは60cmである。

参加者B：基礎に杭などを入れるか。

設計者：地盤が良かったため、杭はない。

参加者C：1日の利用者をどの程度見込んでいるか。

市：現図書館では、平日150～160人の来館があるが、新図書館では、より多くの方から利用してほしいと

考えている。今後運用を検討する中で目標値を定めていきたい。

【2/21 勤労者研修センター】

参加者A:災害が発生した場合、この施設は災害の拠点や避難所等になるのか。

市:新図書館の周辺エリアでは、総合体育館などエリアの人口に応じた避難所を設置している。今後必要性があれば、位置づけが検討される。

設備的には、非常時に備え、ライフラインが一時的に中断した場合もある程度対応できるよう設計している。

参加者B:新施設の利用者数の見込みと蔵書数は今後どのようになるか。

市:蔵書数は、現状 11 万冊を最終的に市全体で 18 万冊にする目標がある。

利用者数は、図書館登録率を4割、一人当たりの年間貸出し冊数を6冊としたいと考えている。

参加者C:3階の静寂読書室は個室になっているのか。

設計者:一人一人の個室ではなく、静かに読書ができる部屋となっている。フロアの音のゾーニングに配慮しているが、様々な読書環境を用意し読書を楽しめるようにした。

参加者C:イベント広場として周辺を活用する一方で、イベント時の音への配慮はどのようか。

設計者:1階が賑やかで、階を上がるにつれ静かなフロアとなるようなゾーニングを行い、下の階でイベントをしていても、上の階では音が減衰するよう考えている。

参加者C:現状の利用登録者数は何名か。

市:年間の入館者数は 45,000 人で、延べ貸出し者数は 28,000 人である。転居等された方も含んでいるが延べ利用登録者数は、13,000 人である。

---

5) 閉会